

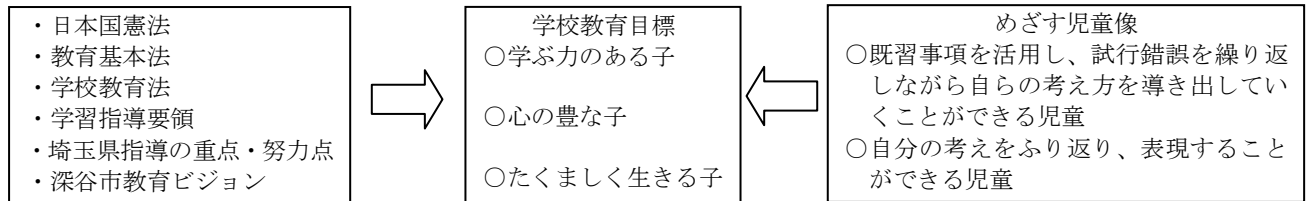
I 研究の概要

1 研究主題

考える力を育てる算数指導法の研究
～自分の考えをふり返る活動を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関わりから



(2) 前年度の研究から

前年度の研究において、授業研究部では、ノート指導を充実させ、授業の中で児童が自分の考えを表現することができるような学習の展開を実践してきた。環境整備部では、算数の学習の流れが児童に理解できるように掲示物を工夫し、算数の授業に対する児童のアンケート調査などを行ってきた。

その結果、児童は、学習の流れがわかるように自分の考えをノートに表現できるようになってきた。低学年では、ブロックやテープ図などを使って自分の考えを表現しようとする児童が多くなってきた。中、高学年では、図と式と言葉をもとに考えを表現できる児童が増えてきた。

今年度は、さらに、算数の授業の中で児童に「何を考えさせたいのか。」「何を表現させたいのか。」を明確にして、授業に取り組むことが必要となってくる。そのためには、教師一人一人の教材研究を通した指導力の向上が求められている。

(3) 表現する能力を育てることの重要性

表現することには、「表すことや書くこと」と「読みとる」ことの両面が含まれるべきである。また、表現することと考えることは、深いかわりを持っている。考えたことは表現することによって整理される。また、そこから新たなことに気づく機会が生まれる。

これらのことから、算数の授業の中で自分の考えを表現する場を意図的に取り入れていく必要がある。

3 研究のねらいと仮説

(1) 研究のねらい

児童が算数のよさに気づき、自ら考える力を育てることができる指導を明らかにする。

(2) 仮説

児童が自分の考え方を振り返り、自分の考え方を数学的に表現する活動を行えば、算数のよさに気づき自ら考えることができる。

4 研究主題への迫り方（手立て）

(1) 授業研究を通して効果的な指導法を研究する。

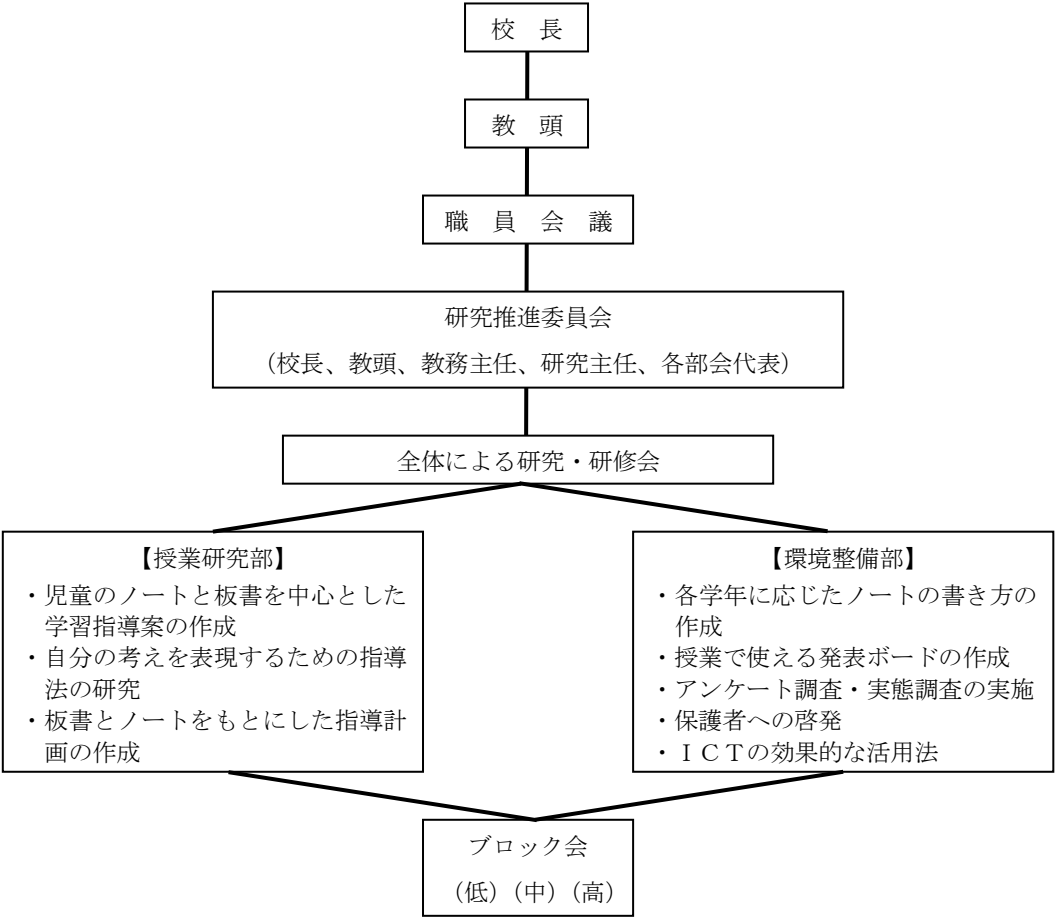
- ・児童のノートと教師の板書の関係を明らかにし、1時間の学習の流れを黒板とノートからふり返ることができるようにする。
- ・学年の実態に応じて、自分の考えを表現する手立てを工夫していく。

(2) 年間指導計画と1単位時間の活動内容を見直す。

- ・1単元の指導計画をノートと板書にまとめ、児童が自分の考えを表現できるように工夫する。

(3) アンケートの実施

5 研究の組織



6 研究構想図

